

平成24年度第2回花巻市立図書館協議会 会議録

- 日 時 平成24年11月20日(火) 午後1時40分～午後2時50分
- 場 所 花巻市立石鳥谷図書館会議室
- 出席者 委員
門馬優子委員、藤原くに子委員、佐々木さつき委員、日下明久美委員、
坂本知彌委員、晴山美紀子委員、折居健委員、白藤祐三委員、阿部善郎委員
(計9名)
- 図書館長
久保田泰輝花巻図書館長、鎌田仁大迫図書館長、小原茂隆石鳥谷図書館長、
多田章東和図書館長
- 事務局
伊藤健一花巻図書館副館長、菅野和東和図書館副主任主査、菊池桂石鳥谷図書館
上席主任
- 欠席者 照井孝司委員、菊池敏宏委員、市川浜委員(計3名)
- 傍聴者 なし

●次第及び協議内容等

※会議に先立ち紫波町図書館の視察研修を実施(午前10時40分～12時20分)

・会議成立の報告(伊藤花巻図書館副館長)

・出席委員9名、欠席委員3名で構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第7条の規定により、本会議が成立することを報告。

1 開会(伊藤花巻図書館副館長) 午後1時40分

2 会長あいさつ(坂本知彌会長)

・紫波町の図書館は新しくとてもよかった。視察は大変勉強になった。

3 議事(協議会規則第6条により坂本会長が議長となる。)

(1) 平成24年度上半期事業実施状況について

・伊藤花巻図書館副館長から、別紙資料1-1～1-4により、読み聞かせの実施状況、ブックスタート実施状況、花巻市こども読書クラブの活動状況等について説明

(質 疑)

(門馬優子委員) こども読書クラブ会員の年齢層は。

(伊藤副館長) 会員登録は小学校1年生から高校3年生まで、小学生低学年が比較的多い状況。

(藤原くに子委員) こども読書クラブの活動を読書習慣がつくように進めてほしい。クラブのテーマによる出席率は。レポートやポスターセッションなどによる成果発表をしてはどうか。

(伊藤副館長) 活動の参加者は毎回15人前後となっている。各図書館の地域の会員の参加が大部分である。

(菅野東和図書館副主任主査) 事前質問による関心の引き出しや、次のステップへの誘導などを実施している。

(阿部善郎委員) こども読書クラブのしくみはいいが、こどもの反応はどうか。大迫の方言学習の内容と効果は。

(菅野東和図書館副主任主査) 参加者の反応は良好、楽しんで参加していただいている。

(鎌田大迫図書館長) 方言を使った絵本の読み聞かせや、地域のことばで歴史を知ってもらう。日常会話としての豊かな表現や地域の歴史・文化を知って盛り上がった。

(藤原くに子委員) 図書館のクラブ活動と学校教育との違いを、読書推進を兼ねて明確に。事前

の特別コーナーを設置するのもよいと思う。

(坂本会長) こどもは本が大好き。楽しさを伝えるのは大人である。

(阿部善郎委員) 若い母親たちの子育て意識の向上と、親子のいい関係づくりをサポートする図書館や読書活動になってくれることを期待する。

- ・平成24年度上半期事業実施状況について、全員異議なく了承。

(2) 平成25年度事業について

(伊藤副館長) 図書館の事業として大きくは、1) 建物等施設の管理 2) 図書館情報システムの管理運営 3) 生涯学習支援 視聴覚教育事業 4) 読書活動推進事業の4つの事業を実施している。施設やシステムの管理関係や視聴覚教育事業については、平成25年度も今年度と同様の事業を実施予定である。読書活動推進事業のうち読み聞かせ、ブックスタート、ブックスタートプラスについても同様の方針で事業を実施する予定である。本日は、今年度新規事業として始めたこども読書くらぶの平成25年度に計画している活動内容等について説明する。

- ・菅野和東和図書館副主任主査から、別紙資料2により、平成25年度花巻市こども読書くらぶの実施要項(案)及びくらぶ活動(案)について説明

(質 疑)

(白藤祐三委員) こども読書くらぶの平成25年度計画をみて、学校の社会科見学的要素と図書館活動及び読書推進活動との結びつきが大切だと思うが、それに向けた誘導策はあるか。参加者の年齢幅が広いことはいい面もある。その良さを生かす工夫があれば効果的だし、リーダーが育つ可能性がある。

(久保田館長) 小学1年生から高校3年生まで、幅広い年齢層への対応が課題でもある。くらぶ会員だけでなく、各小学生などにも図書館に行けば色々調べることができる、図書館へ行くとおもしろいという仕掛けづくりが重要で周知していきたい。次年度はキャリア教育に向けたメニューに配慮したものである。

(坂本会長) 読書くらぶの土日の活動は、保護者も子どもも行事等で、参加がむずかしいかもしれない。広域からの参加も考慮すべきだと思う。次年度のテーマの仕事は、お父さんたちの仕事を子どもが知るうえでも重要だと感じた。自営業でもない限り父親の仕事の姿をみるのが無い。自宅でくつろぐ親の姿だけでは、尊敬の感情は持ちにくいと感じる。父親の職場を見学したことで、子どもが同じ職業に就いたという話を聞いたことがある。

(門馬優子委員) 所属するボランティア団体で民話紙芝居を上演し好評をいただいている。読み聞かせの幅を広げる意味ではよいと思っている。次年度のこどもくらぶの福祉施設訪問はとてもいい企画。特に見学だけでなく、くらぶ会員による慰問の紙芝居上演をすることに価値がある。今年度のステップアップにもなる内容でよいと思う。

(藤原くに子委員) 地元の小学校で読み聞かせをすることがある。子どもたちの反応も良く楽しい。

(坂本会長) 毎年8月にかわいそうなぞうを読んでいるが、その対比のために、今年は楽しい夏の絵本を併せて読んだ。子どもは絵本や物語の本旨を瞬時に的確に捉える能力を持っている。この素晴らしい能力を侮らず伸ばしてやりたい。

(白藤祐三委員) 男性の育児参加イクメンが話題になっているが、読み聞かせは女のひとのほうがよい。男性の読み聞かせは選書に苦勞する。特に対象年齢の幅が大きいと、男性の読み手に適する本は探すのが大変なのが現状である。家庭の読書環境の充実が重要で、母親が1対1で生の言葉で読み聞かせるのが一番良い。自然にこどもが本を手取るようになる。

(折居 健委員) 子どもにとってモノづくりの体験はとても重要。次年度の職場見学は業種も広く、しかも地域特性がある仕事なのでいい企画だと思う。

(晴山美紀子委員) 13歳のハローワークなどの本を見ると、世代の違いを実感する。子どもに

は手本が必要な時代になったということか。

- (日下明久美委員) くらぶ活動参加者の反応が良好なら、参加しない・参加できない子どもたちの誘い方に工夫が必要なのではないか。次年度は今年度の反省を生かす工夫に期待したい。
- ・平成25年度事業について、全員異議なく原案のとおり諮問することとした。

(3) その他

- ・花巻図書館整備市民懇話会から「花巻図書館への提言書」の提出がなされたことについて、その提言内容等について、別紙提言書の写しにより久保田花巻図書館長から説明した。
- ・今後は、懇話会の提言を踏まえ、基本計画の策定、基本設計へと進めていきたい。

(質 疑)

(坂本会長) このメンバーに市民懇話会の構成員と重複する方もいるが、子育て環境としての図書館をどのようにしていくか見守りたい。複合施設とした場合に複合相手との組み合わせの多様性も思案のしどころだし、相手によって、図書館は大きな影響を受けると思う。

(晴山美紀子委員) 図書館に授乳スペースがあるなんて、とてもいい時代になったことか。私の子育て時代は、乳飲み子がいるうちは外出できないものだった。共働き世代の利用状況を把握し、彼らが利用しやすい図書館づくりに配慮してほしい。

4 その他

特になし

5 閉会 (伊藤花巻図書館副館長) 午後2時50分